令和６年度

兵庫県緑の少年団活動事例集

令和６年度　兵庫県緑の少年団活動発表会記録誌

開催日：令和６年 10 月５日（土）
開催場所：兵庫県立三木山森林公園

兵庫県緑の少年団連盟

活動事例集発行にあたって

この事例集は、令和６年10月５日(土)に三木市の兵庫県立三木山森林公園を会場に開催した「令和６年度兵庫県緑の少年団活動発表会」において、緑の少年団が発表した活動内容を、当日の資料をもとにまとめたものです。

この発表会は、兵庫県内の緑の少年団が、日頃の活動成果を発表しあって情報交換を行うことを目的としています。

当日は、県内１２２団８，３３２名を代表して、阪神地区代表の三田市緑の少年団（三田市)、北播磨地区代表のきすみの緑の少年団（小野市）の計２団が日頃の活動の成果を発表しました。

活動発表では、各団が、緑の少年団として、それぞれの地区で活動している様子を紹介してくれました。

いずれの事例も、団員が地域の方々の協力を得ながら一丸となって行った、環境保全や緑化につながる活動です。

その他にも、ひょうご森のインストラクター会のご協力で、緑を守り育てる大切さを学習する森林観察会や、「森の絵本」の読み聞かせを行いました。

本書を参考にしていただき、今後ますます緑の少年団活動が充実し、発展していくことを期待しています。

また、本発表会の開催に際しまして、一方ならぬご協力をいただきました兵庫県立三木山森林公園をはじめとする関係者の皆様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

令和　７年　２月

兵庫県緑の少年団連盟

目　　次

（敬称略）

（１）「自然とふれあう活動を通じて」 …… Ｐ2

阪神地区代表　　三田市緑の少年団（三田市）
発表者　齊藤　倫己

（２）「３つの柱」 ……Ｐ5

北播磨地区代表　きすみの緑の少年団（小野市）
発表者　河合　沙奈、澤田、彩、都倉　萌生、松尾　愛音、三浦　由希、
松尾　奏冴、都倉　未来

（３）森林観察会について …… Ｐ8

（４）「森の絵本」読み聞かせ ……Ｐ9

○　審査員長講評 …… Ｐ10

【プログラム】

１　主催者あいさつ
２　審査員紹介
３　発表会
４　森林観察会
５　ひょうご森のインストラクター会による「森の絵本」読み聞かせ
６　講評・表彰式
７　閉会

【審査員】

審査員長　清水　勲夫（一般財団法人野外活動協会　理事長）

審査員　　藤本　憲介（公益社団法人兵庫県緑化推進協会　常務理事兼事務局長）

審査員　　峯　陽治郎（兵庫県緑の少年団連盟事務局長・兵庫県農林水産部治山課長）

阪神地区：三田市緑の少年団

自然とふれあう活動を通じて

（１） 少年団の紹介

三田市緑の少年団は、『緑を守るために何かできないか』という思いから結成されました。

現在、団員は、三田市内の小学生 66 人で構成されています。「自然と触れ合い、森を育てることで緑と親しむ」「森林と河川と農業の繋がりを学び、これからの自然と人間との関わり方を考える」「お互い力を合わせて、社会に役立つ自主的な活動を行う」といった目標を持ち、月に１回の活動をしています。少年団活動は、三田市役所の里山保全課が事務局となり、団長・保護者・そして卒団してからも僕たちをサポートしてくれるヤングリーダーと呼ばれる中学生・高校生の先輩たちによって運営されています。

また、活動の内容によっては、外部の専門家の先生に来ていただくこともあります。

三田市の森林

（２） 少年団の日頃の活動

三田市は、兵庫県の南東部に位置し、大きさはおよそ 210 平方キロメートルです。そのおよそ３分の２が森林で、たくさん山はありますが、三田市で一番高い山は、標高およそ 700 メートルほどです。

三田市の中央あたりに「有馬富士」という山があります。この山は、標高 374 メートルですが、市街地からよく見える場所にあり、三田市の象徴の一つとなっています。

有馬富士

この有馬富士の一角にある「三田市緑の少年団の森」では森林ボランティアに教わりながら下草刈り・落葉拾い等をして虫たちが集まるビオトープを作るなどの活動をしています。そこには腐葉土もしっかりできていて、中から大きなカブトムシの幼虫を見つけました。自分の掌（てのひら）くらい大きくてビックリしました。緑の少年団の森での活動では、色々な生きものと出会えます。中には危険なものもいますが、知らなかった生きものを知ることができるので楽しいです。１人では大変な草刈りや落葉集めも仲間と協力することで頑張れます。

左右：
虫たちが集まる
ビオトープ作り

左右：
草刈り・落ち葉拾い

有馬富士では、キノコや野鳥の観察会をします。キノコ観察会では、押すと煙のようなものが出てくる「ホコリタケ」や、ピンクやオレンジ色をした今まで見たこともないキノコを見つけました。毒のあるキノコと色に関係はないと教えてもらいました。不思議だなと感じました。

左右：
キノコ観察会

野鳥観察会では、「三田野鳥の会」の方に教えてもらいながら珍しい鳥や絶滅の危機に瀕しているミサゴを見つけました。双眼鏡よりも大きな望遠鏡で見せてもらえた時は凄く興奮してワクワクしました。

兵庫県の天然記念物である「皿池湿原」が三田市にあります。少年団では７月に自然活動に詳しい先生方と一緒に見学をします。大きさが１ 円玉くらいしかない「ハッチョウトンボ」、カメムシの仲間の「ヒメタイコウチ」、湿地に生える食虫植物の「モウセンゴケ」、絶滅危惧種にも指定されている淡水魚「カワバタモロコ」など希少な動植物が多く生息しています。今は保全活動をしている方々の手で守られていますが、自分たちでもこの環境や大切な命を守っていきたいと感じました。

緑の少年団として最初の活動は４月の入団式後の「緑の募金活動」です。

三田市の駅前で「緑の募金にご協力をお願いします。」と、皆で呼び掛けますが、天気も悪く、立ち止まってくれる方も少なかったし、恥ずかしかったので声もバラバラでした。そこでヤングリーダーが声を揃えての呼びかけを応援してくれました。すると目の前を通り過ぎた人が戻ってきてくれ「頑張ってね。」と言って募金に協力してくれました。自分たちの声と気持ちが届いたことがすごく嬉しかったです。

夏にはデイキャンプをします。森で伐採した木から作られた炭を使ってバーベキューをします。炭は、バーベキュー以外にも臭いを消す脱臭やジメジメをとる除湿など色々な使い道があると教えてもらいました。伐採された森林の木は、人間に豊かな恵みをもたらしてくれる貴重な資源なのだということを学びました。

「ひょうご里山フェスタ」という大きなまつりにも参加しています。森の整備の仕方を勉強・体験し、緑の募金活動も行います。木工クラフトやゲームなど楽しい体験もできました。そしてこのフェスタで自然に関わる活動が沢山あることを知りました。

２月は６年生の「卒団式と少年団の集い」が最後の活動になります。修了証が渡され、有馬富士公園の「三田市緑の少年団の森」に記念植樹をしたあとウォーキングをしたり、手作りピザを食べながら楽しい時間を仲間と過ごします。

ひょうご里山フェスタ
（森林整備体験）

（３） 活動を通じて学んだこと、感じたこと

緑の少年団の活動を通じて、自然とふれ合う活動の楽しさ、仲間と協力することの大切さを学びました。僕には兄が二人いて、二人とも緑の少年団の団員だったので、僕は小学校１年生で入団する前から一緒にこのような活動をしてきました。小さい頃は自然の中で遊ぶことは楽しいだけだったけれど、今では、その自然が人間にとってかけがえのない大切な存在なのだと、心から感じるようになりました。

三田市は、緑あふれる里山がたくさん広がっています。コロナの影響もあり皆で活動できない時期もありましたが、少しずつ活動も再開しています。これからも緑を大切に守りながら自然を感じることができる活動を仲間や家族と一緒に楽しく続けていきたいと思います。

（４） 活動の中で楽しかったこと

キノコ観察会でいろいろなキノコを見つけることが楽しかったです。

左右：
キノコ観察会

野鳥観察の様子

皿池湿原での活動風景

３つの柱

（１） 少年団の紹介

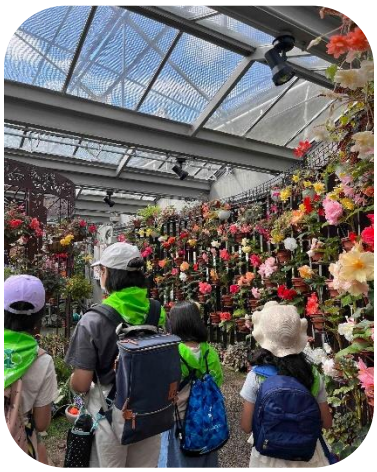
団員 22 名からなる、きすみの緑の少年団は、兵庫県中南部の小野市に位置しています。小野市は、豊かな自然に囲まれており、ひまわりが一面に咲き渡るひまわり畑がある他、全長４kmにもなる桜堤回廊は、西日本最大級の規模を誇っています。

きすみの緑の少年団が位置している来住地区には、日本一低いアルプスとも呼ばれる「小野アルプス」があり、多くの方がハイキングを楽しまれています。

小野市のひまわり畑

（２） 少年団の日頃の活動

きすみの緑の少年団では、「自然との共生を学ぶ」を活動テーマとして、３つの柱をもとに活動しています。それは、「知る」「守る」「使う」の３つです。



兵庫県立フラワーセンターでの学習の様子

まずは、「知る」活動についてです。

お花の勉強会として加西市にある兵庫県立フラワーセンターに行ってきました。園内には、世界中の様々な種類の花が咲いており、花の特徴や育て方、歴史などを学習しました。

ガイドさんの専門的な知識に感動し、ますます花に興味を持ちました。花を育てるためには、水や土、湿度や温度なども関係しており、微生物などの生き物も必要だと学びました。

次に、多可町にある兵庫県立なか・やちよの森公園で行われた緑の少年団交流会に参加しました。県内交流会では、県内エリアの緑の少年団が集まり、森林観察を行いました。森林観察では、ソヨゴの葉は火を近づけるとパチンと音が鳴ることや、エゴノキの実は、昔、石けんとして使われており、水と一緒にペットボトルに入れて振ると泡が出てくることなど、自然を使った遊びを、森林インストラクターの方に教えてもらいました。

また、人の手で種を播いたり、苗木を植栽して育てている森林である人工林と、主に自然の力によって発芽し、育った、天然林についても学習しました。まっすぐ上に伸びている木が人工林です。斜面から斜めに伸びているのが天然林です。

これらの「知る」活動を通して、フラワーセンターでは、花を栽培するためには、定期的な水やりや適切な温度管理などが必要だと学びました。

兵庫県立なか･やちよの森公園での森林観察

県交流会では、きれいな人工林を育てるには、下草刈りや間伐、枝打ちなどが必要だと学びました。これらのことから、美しい自然を守るためには、人による定期的な手入れや、整備が必要だとわかりました。

人工林

天然林

次は、「守る」活動についてです。

竹林整備体験会として、小野市下東条地区にある公設コンビニ「ふれあいマート」の石井会長が管理している竹林を観察させていただきました。竹林整備体験では、深刻化する「竹林問題」について学びました。人による管理が行き届かず、放置された竹林が、里山や人工林に影響を与えていると知りました。もし、整備されないまま放っておくと竹により日光がさえぎられ、他の木が育たなくなってしまいます。

竹林整備体験会での伐採の様子

しかし、個人で広い竹林全体を管理し、整備することは不可能です。

守る活動を通して学んだことは、美しい森林を守る整備活動は、個人だけでは難しいので、地域の人々が協力して行うことが必要だということです。

最後は、「使う」活動です。竹林整備で伐採した竹を使って、器とおはしを作りました。

竹をのこぎりで切るときは、刃が引っかかってしまったり、うまく力を入れられなかったりと苦労しました。のこぎりで切った竹は、角がとがっていて危ないので、やすりで表面を削り、つるつるにしました。やすりできれいにするのは大変でしたが、一生懸命こすりました。作った器とおはしを使って流しそうめんを食べました。一生懸命作ったものを使って食べるそうめんはいつもよりおいしかったです。

食べた後は、「ふれあいマート」の流しそうめんイベントに参加し、運営のお手伝いをしました。一般のお客様に器やおはしを渡したり、そうめんを流したりしました。お客様の笑顔を見ると、自分たちまで嬉しくなりました。

次に、小野市の市花でもあるひまわりを活用した花輪づくりを体験しました。小野市の観光名所の一つでもあるひまわりの丘公園前の畑では、夏になれば一面のひまわりが咲き誇ります。

そこで、花輪づくりに使うひまわりを採取しました。ひまわりの開花時期が早まったこともあって、きれいなひまわりを探すのは大変でした。集めたひまわりを使って花輪づくりをしました。花びらが取れたり、うまく貼り付けられなかったりして難しかったです。ひもで固定して工夫したり、自分の好きなもので飾り付けたりすることが楽しかったです。

「使う」活動を通して学んだことは、自然をいかして作れる作品があるということです。

小野市のひまわりを活用した花輪づくり

また、私たちの生活の中にも自然の恵みを利用したものが、多くあることを学びました。中でも、竹はいろいろなものに作り変えることができるとわかりました。

そろばんについても、竹が使われています。小野市で作られるそろばんは、「播州そろばん」として「伝統的工芸品」にも指定され、「400 年」以上もの長い歴史と伝統があります。

小野市の
そろばんモニュメント

（３） ３つの活動を通じて感じたこと

これらの活動を通して、人と自然が関わり合いながら維持されてきた土地を、放ったらかしにするのではなく、地域で協力して管理することが大事だと思いました。そうして切られた木や竹を加工し、活用していくことが自然と共生するということにつながるのではないかと感じました。

（４） 募金活動

きすみの緑の少年団では、公設コンビニ「ふれあいマート」にて募金活動を行っています。

募金額は、令和５年度は 2,302 円、令和６年度は 2,848 円となり、多くの方にご協力いただきました。募金で集まったお金は県の緑化推進協会へ納めています。

そして、市内の緑化事業やハイキングコースの看板の更新、森林保全のための資材費に充てられています。

（５） 活動の中で楽しかったこと、きつかったこと

花輪作りをしたり、森林観察で森林インストラクターの方が自然の中で楽しい遊びを教えてくれたこと、また、竹を使って流しそうめんを流したり、竹で器やおはしを作るところが楽しかったです。

暑い中、器やおはしを作るのに、綺麗になるまでヤスリで磨いたり、竹をのこぎりで切ることがきつかったです。

いろいろな活動を通じて、あまり話さない人とも一緒に行動することで仲良くなれました。みんなで協力して他の学年の人をサポートしたり、同じ学年の人たちだけでなく、違う学年の人達とも絆が深まり、気軽に話せるようになりました。

竹で作った自作の器とおはしで流しそうめんを体験

森林観察会について

当日参加いただいた少年団の皆さんを対象に、県立三木山森林公園の浅田先生と、ひょうご森のインストラクター会のスタッフにご指導いただき、森林観察会を行いました。森林に入る前に浅田先生より、危険な生物や触れてはいけない植物などのご説明がありました。なかなか自然に触れる機会が少なくなった昨今、浅田先生やインストラクターの方々の説明に、少年団の皆さんは真剣に耳を傾けていました。こうした活動を通して、森林の大切さを学び、今後の活動につなげてほしいと願います。

森に入る前の注意事項を説明

こんな珍しい植物があったよ！

森林観察会に参加した緑の少年団員からのコメント（アンケートより）

・ピーナッツチョコのにおいがする葉っぱや知らないことを知ることができました。
・山登りが楽しかったです。
・暑かったけれど、きのこやどんぐりや花をたくさん見ることができたので、楽しかったです。
・いろいろな木の種類や危ない葉っぱなどを教えてくださったので楽しかった。
・いろいろな木を知ることができました。
・森林観察会は暑かったけれど、みんなで活動できたので楽しかったです。

森林観察会の様子

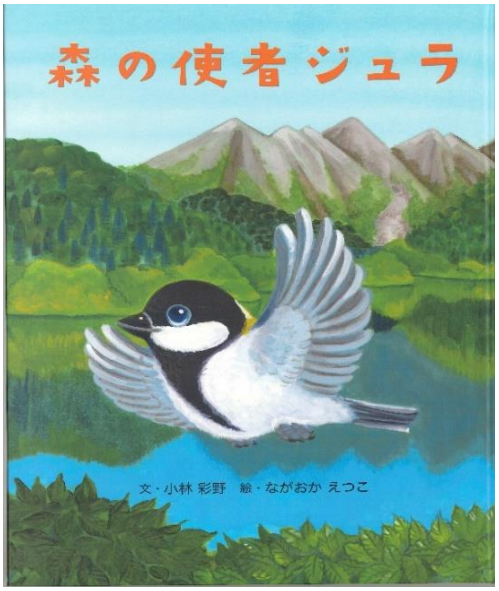
「森の絵本」読み聞かせ　ひょうご森のインストラクター会

ＫＯＢＥＬＣＯグループ主催「第１１回ＫＯＢＥＬＣＯ森の童話大賞」小学生の部金賞作品『森の使者ジュラ』をもとに制作された絵本を、森のインストラクター会の方に朗読していただきました。

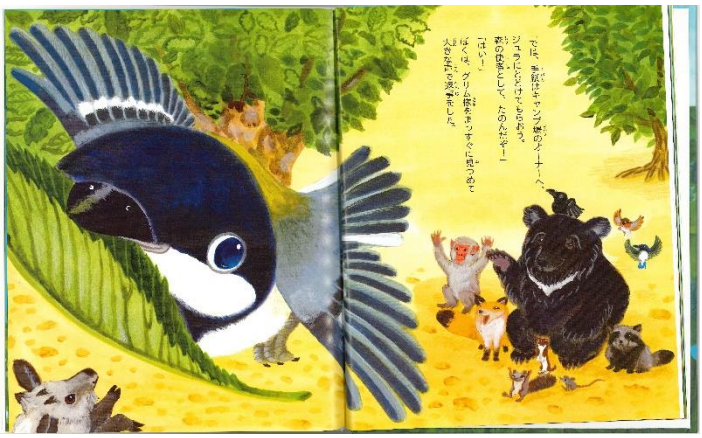
この作品は、神奈川県川崎市在住の小林 彩野さんが応募し、受賞された作品です。挿絵を担当されたのは、絵本作家であるイラストレーターのながおか えつこさんです。

主なお話の舞台は、長野県松本市上高地の森を舞台として設定されています。舞台となる森林は、夏緑樹林で、絵の背景には針葉樹林も描かれています。森は、たくさんの生きものの命を育み、空気をきれいにし、水をたくわえ、私たちの暮らしに安全と豊かな恵みを与えてくれていますが、一度、元気を失ってしまうと、元通りにするには長い年月と、大変な努力が必要になります。

この絵本を読んで、このような森を理解し、一人でも多くの子どもたちが、森をはじめとする自然について考え、かけがえのないものであることに気づき、いつか森や自然を元気にすることを何か一つでも実行していただければという願いが、この絵本には込められています。



ＫＯＢＥＬＣＯ森の童話大賞　金賞作品



力を合わせて自然を守る森に住む動物たち

「森の絵本」読み聞かせの様子

令和６年度　兵庫県緑の少年団活動発表会　講評

審査員長
一般財団法人野外活動協会
理事長　清水　勲夫

今日は、２団体から発表していただきました。５つ、６つの団体が発表されることもあるのですが今、こうした活動を地域で展開するのはコロナの後、まだまだ大変です。でも元気な発表を今日は聞かせていただきました。時々このように集まって、日頃の自分たちの活動を発表する、聞いてもらうということは、大変ですが大切な機会です。活動をふり返り、成果や時には課題もあらためて考えますよね。ちょっとリーダー、任せるからやっといてよ、ということもできますけど、きちんと発表するときはみんなで活動を振り返り楽しかったこと、大変やったこと、気づいたこと、学べたことそして緑の少年団って一体、何やったのかな、と考えたり話したりする機会をもつことはとても大切なことです。

自分たちの活動を振り返って、山や森の中に入って、緑や水があって、やっぱりそれって生きものの環境で必要だし、人間にとっても大切なものが、少しおかしくなってきていることに気が付くこともあるはずです。

2020 年小学校の学習要領の中に入ってきた SDGs という言葉は、今や小学生の方が大人たちより知識を持っています。それは環境の問題だけではなく、人間が健康で幸福に生き続けるために何とかしたいし、解決すべき問題としてとり組みましょうという指針です。2030 年くらいまでに目処をつけて成果を上げる、と宣言して日本はこれからどうやっていくのか。

皆さん方は緑の少年団、その活動の中で、また日頃のくらしで取り組めるものもたくさんあります。皆さん方が楽しめる活動を通じても、いろいろなことが可能です。授業とは違い、テキストもありません。先生がいつも教えてくれるわけでもありません。自然や環境そのものが先生です。安全を見守り、お手伝いしてくれる先生や専門の指導員の方が時々います。

今日はそういうことで２団体から発表していただきました。とても素敵でした。緑の帽子、緑のネッカチーフ、これがまず象徴的です。これは発表会用の衣装ではありません。本来、皆さん方が活動する時にこれを付けることで、僕らはこういう思い、希望、そしてややこしくミッションと言いますが、使命、目的を持って、活動を楽しみかつ学びながら取り組んでいます。難しいところです。食べるときは美味しく、いろんなものを作る時は、集中して作りましょう。いつもならできない体験が、こうした環境の中でできるということが大事です。

そして、それぞれ素晴らしい発表をしていただきました。この２団体に素敵な賞状をお渡しします。これをきっかけに、よし、もっと頑張ろう、と思っていただけたら嬉しいです。２団体でちょっと寂しい感じもしなくはなかったのですが、それを跳ね返す、元気な２団体に会えて、今日はとても良かったです。どうぞまた次回、またどこかの団体がいろいろなことにチャレンジしたり、楽しい活動の様子を聞かせてくれたら楽しいですね。

だから、このような集いで自分たちの活動をアピールして、大変だった活動やうまくいかなかった活動も含めてまた、ぜひ伝えたいことなど、何かそのような話題が共有できたら、こうした活動がもっと魅力的に、また広がっていくのではないかと思いました。

【三田市緑の少年団】

三田市の緑の少年団さん、とても元気な活動でした。年間コンスタントに活動ができていますね。学校がまたがっているので、なかなか集まるのも大変ですけれど、子どもたちが集まったときに、他校のあまり馴染みがなかったお友達とも仲間作りができたり、活動できたりで良かったなという、こうした交流の実際体験が続くことを願います。

とても素敵だな、と思ったことは、ＯＢの中高生がヤングリーダーという名前で残ってくれていること。これは特筆するべきだと思います。お兄ちゃん、お姉ちゃんにも手伝ってもらい、出番を作り、積極的に引っ張り込んで、次のリーダーとしても育ってもらえるような仕組みづくりや支援を是非やっていただければと思います。

【きすみの緑の少年団】

きすみの緑の少年団さん、「知る」「守る」「使う」の体験を通して、学びのプロセスを組み立てているのがすごいな、と思います。これを子どもたちに強いている形ではなく、これを子どもたちがさらに自主的に体験して実感できるように、活動をぜひ進めて下さい。比較的少ない団員数ながら、とても活発に活動されているように思います。

少年団活動は、教育・指導というよりは育成活動です。育成ということは、平気で失敗させることもありです。任せてそこそこ褒めることも大切です。大事なことは何か、緑の少年団は何のためにあり、何をやるところなのか、指導者の方が分かっていれば、自ずとメリハリはついてくるはずです。子どもたちが自然というゲレンデで、自然や生きものに出会い、美味しいものを食べ、時に作り、変化するお天気の下で、仲間とすごせて良かったな、と感じたら、きっと子どもたちはその思いや経験を次に生かしてくれます。

自然の中でゆったり仲間と食べるおにぎりは、町中のベンチで一人、大急ぎで食べるより美味しいに決まっています。やっぱり人間として生きてて良かったなと思える、そういう機会と環境と体験をみんなで作り、守っていく活動が、大切ですし、ここにはそれがあります。

最後に、どちらの団体も募金活動に取り組みました。自分たちの活動を社会にアピールする、知らせて協力や支援を求める。お金を集める、が目的ではないのです。皆さんの元気で熱心な声にびっくりして、通り過ぎた人が戻ってきて応援してくれた、そんな素敵なお話も聞きました。そういうことなのです。自分たちがやってることの再確認、そして思いの発信。その姿が素敵だな、やってる皆さんが元気だな、頼もしいな、もっとがんばれ、と実感してもらえたのです。やっている皆さんが魅力的に見えたら、周りは必ず応援します。そういう活動を是非、続けてください。

参加少年団

きすみの緑の少年団（小野市）

三田市緑の少年団（三田市）

兵庫県緑の少年団連盟

〒650-8567　神戸市中央区下山手通５－１０－１

兵庫県農林水産部治山課内

TEL 078-341-7711（内 4217）　FAX 078-362-3952